

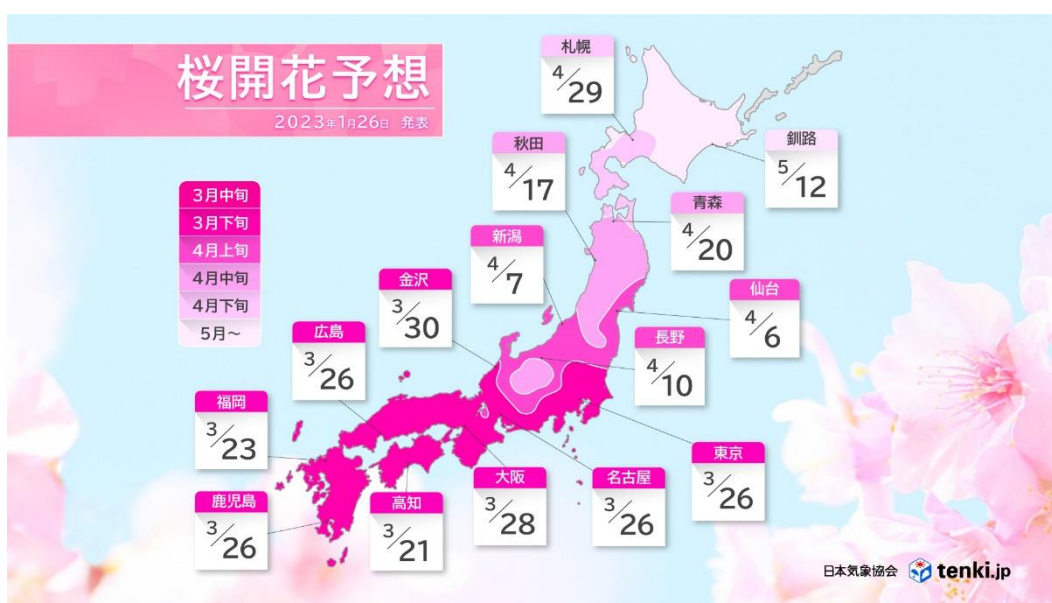
【報道関係各位】

2023年1月26日
一般財団法人 日本気象協会

2023年桜開花予想（第1回） 全国的に平年並み 開花トップは高知で3月21日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国 49 地点（ソメイヨシノの標本木 48 地点と釧路市のエゾヤマザクラの標本木）の桜の開花予想（第1回）を、2023年1月26日（木）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

地点		開花予想日と傾向(平年比)		平年	昨年
鹿児島県	鹿児島市	3/26	平年並	3/26	3/20
福岡県	福岡市	3/23	平年並	3/22	3/17
高知県	高知市	3/21	平年並	3/22	3/19
広島県	広島市	3/26	平年並	3/25	3/21
大阪府	大阪市	3/28	平年並	3/27	3/23
愛知県	名古屋市	3/26	平年並	3/24	3/22
東京都	千代田区	3/26	平年並	3/24	3/20
長野県	長野市	4/10	平年並	4/11	4/9
新潟県	新潟市	4/7	平年並	4/8	4/8
石川県	金沢市	3/30	早い	4/3	3/30
宮城県	仙台市	4/6	平年並	4/8	4/8
秋田県	秋田市	4/17	平年並	4/17	4/12
青森県	青森市	4/20	平年並	4/22	4/16
北海道	札幌市	4/29	平年並	5/1	4/23
北海道	釧路市	5/12	早い	5/16	5/8

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



開花の傾向

2023年の桜の開花は、全国的に平年並みのところが多いでしょう。関西の一部では平年より遅く、北陸と北海道では平年より早いところがある見込みです。昨年は平年より早い開花となった地点が多かったため、昨年比では全国的にほとんどの地点で遅い開花となりそうです。

今年の花の開花は、3月21日に高知からスタートするでしょう。23日には福岡や宮崎で、24日には長崎と熊本で開花する見込みです。3月末までに、九州から関東にかけての多くの地点で開花する見込みで、東京や横浜、名古屋では26日、大阪では28日に、30日には金沢で開花となるでしょう。

4月に入ると、桜前線は東北まで北上し、4月6日には仙台で、8日には福島で開花する見込みです。下旬には北海道へ到達し、札幌では29日に開花するでしょう。

この冬(12月～1月)は、たびたび強い寒気が流れ込んだ影響で、高知や徳島などでも10cmを超える積雪を観測するなど、12月を中心に平年より気温が低く推移しています。そのため、桜の花芽の休眠打破^{*}は順調に行われたとみられます。

2月の気温は、全国的に平年よりやや低くなるでしょう。3月に入ると、東日本と北日本で平年より高くなる見込みです。そのため、桜の開花は全国的に平年並みのところが多く、東日本と北日本では平年より早い開花となる地点があるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーびー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1:桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1:以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月26日(木)	第2回 2月16日(木)	第3回 3月2日(木)	第4回 3月9日(木)
第5回 3月16日(木)	第6回 3月23日(木)	第7回 3月30日(木)	第8回 4月13日(木)
第9回 4月27日(木)			

Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3:予想する地点数は？

A3:1月、2月中は49地点、3月以降は全国で89地点の予想を発表します。予想地点89地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点となります。

Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で17年目の取り組みです。

Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。